

平和ってなに？

～戦争を知って平和を考えよう～

令和7年度版



7月12日は「宇都宮市平和の日」
7月12日～8月15日は「宇都宮市平和月間」です

宇都宮市では、宇都宮空襲があった7月12日を「宇都宮市平和の日」、7月12日から終戦の日の8月15日までを「宇都宮市平和月間」と定め、戦争の悲惨さや平和の大切さを伝えています。

この期間中、宇都宮市立図書館では、平和関連の本などを集めたコーナーを開設しています。あわせて、平和を考えるための図書のリストを作成しました。どうぞご利用ください。

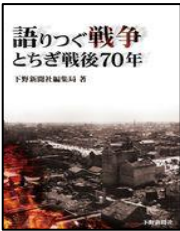
戦時中の栃木県や宇都宮市についての本

	タイトル	うつのみやの空襲			宇都宮市の「戦災記録保存事業」の報告書。近代の宇都宮の歴史から、戦後の平和への道のりまでを、多数の写真や資料、市民への聞き取り調査などでわかりやすく記録している。
	著者	宇都宮市教育委員会/編			
	出版社	宇都宮市教育委員会			
	分類	K210.7/ウ	出版年	2001年	
	所蔵館	全館		2011年	

	タイトル	宇都宮空襲の記憶			昭和20年7月12日に起きた宇都宮大空襲当日の記憶を中心に、市民が自身の戦争体験をつづった記録集。当時の宇都宮市で起きた、九つの貴重な体験を収録している。
	著者	宇都宮市平和委員会/編			
	出版社	宇都宮市平和委員会/編			
	分類	K390/ウ	出版年	2005年	
	所蔵館	中央・東・南			

	タイトル	二荒山は炎の中に			宇都宮空襲・戦災の実態を、多くの図版や写真、絵を使い、わかりやすく解説。市民による宇都宮空襲の切実な体験談を交え、身近なところから平和を考える1冊。
	著者	宇都宮平和祈念館建設準備会/編			
	出版社	随想舎			
	分類	K390/ウ	出版年	1992年	
	所蔵館	中央・東・南・河内			

	タイトル	実録!宇都宮大空襲			当時市役所に勤務していた郷土史家の徳田浩淳氏が、宇都宮大空襲のあった7月12日から19日までの一週間を、自身と家族の体験を中心に克明に記録している。
	著者	徳田浩淳/著			
	出版社	宇都宮平和祈念館をつくる会			
	分類	K390/ト	出版年	1999年	
	所蔵館	中央・南			

	タイトル	語りつぐ戦争 とちぎ戦後70年			下野新聞が戦後70年を節目に企画した連載記事をまとめたもの。栃木県内外の戦争体験者による証言や、惨禍を語り継ぐ各地の取り組みを多数収録。記憶や歴史が遠ざかりつつあるなか「いま語らねば、伝えねば」という切迫した思いが伝わってくる。
	著者	下野新聞社編集局/著			
	出版社	下野新聞社			
	分類	K200.7/シ	出版年	2016年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	戦争が終わった日 栃木県民が語る八月十五日			昭和20年8月15日終戦の日の栃木県民の体験談。空襲・食糧難・学童疎開・勤労動員そして、肉親・友人の出征・戦死など、戦争が遠く離れた時代や地域のものではないことと、平和の大切さを知る。
	著者	編集工房随想舎/編			
	出版社	随想舎			
	分類	K200.7/ズ	出版年	1989年	
	所蔵館	中央・東・南・河内			

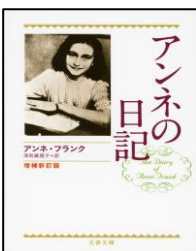
No Image	タイトル	一しずくの水 ー栃木県被爆者体験記ー			県総合運動公園内に「栃木県原爆死没者慰霊の碑」が建立されたのを機に、核兵器廃絶と世界平和を訴えるため発行された、栃木県関係者だけの被爆体験記。栃木県民も原爆とは無縁ではないことを改めて考えさせられる。
	著者	栃木県原爆被害者協議会/編			
	出版社	栃木県原爆被害者協議会			
	分類	K950/ト	出版年	1992年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	戦争の記憶を語り継ぐ(DVD)			宇都宮空襲、シベリア抑留、インパール作戦などを体験した栃木県内在住者たちの証言を集めた2枚組DVD。当時の心理状態や悲惨な生活について細部まで語られており、ひとつひとつの言葉の重みに胸が締め付けられる。
	著者	栃木県/編			
	出版社	栃木県			
	分類	270/セ	出版年	2016年	
	所蔵館	中央・南・上河内・河内			

次代へ読み継がれていく本

	タイトル	黒い雨			原爆の激しさ、恐ろしさを声高に表現する作品が多い中、この作品は被爆者の日常をただ淡々と描いている。市井の人の上に冷たく降り注ぐ黒い雨。静かな光景が原爆の残酷さを際立たせ、平和の大切さを強く訴えている。(野間文芸賞受賞) ※埼玉福祉会発行の大活字本あり
	著者	井伏 鱒二/著			
	出版社	新潮社（文庫）			
	分類	F/イブセ.マ	出版年	2003年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	ヒロシマ・ノート			戦争と原爆というテーマだけでなく、人間としてどう生きるべきか、戦争の記憶をどう伝えていくべきかという普遍的な問題を追求した作品。作者は広島での出来事を通して、倫理や責任、文学の可能性について深く掘り下げ、現代の人々に戦争の記憶と影響について真摯に考えることを呼びかける。
	著者	大江健三郎 著			
	出版社	岩波書店			
	分類	916/オ	出版年	2021年	
	所蔵館	中央・南			

	タイトル	アンネの日記			第二次世界大戦下、ユダヤ人ゆえに隠れ家での生活をしいられるアンネ。13歳から約2年間にわたりつづられた日記では、辛くても、いつかまた幸福を見いだせると信じ、未来に希望を抱くことで自分を保つアンネの健気さや強さにふれられる。(ユネスコ記憶遺産)
	著者	アンネ・フランク/著 深町 眞理子/訳			
	出版社	文藝春秋			
	分類	945/フ	出版年	2003年	
	所蔵館	全館			

戦争を知り、平和を願う本

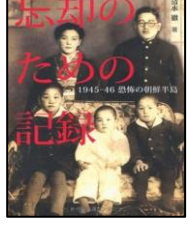


	タイトル	戦争と平和-80年の記憶-			新聞通信調査会による同名の写真展の図録。「戦後80年」を振り返る107枚の写真とコラム、識者による寄稿、年表からなる一冊。「戦争」と「平和」が、いかなる形をもって人々の前に現れるのかをビジュアルで伝える。
	著者	新聞通信調査会 編			
	出版社	新聞通信調査会			
	分類	748/シ	出版年	2025年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	被爆者からあなたに いま伝えたいこと			1965年の結成から、長きにわたる活動とその実績によって、昨年のノーベル平和賞を受賞した「日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）」被爆者運動のあゆみをたどりながら、核なき世界の実現を考えるためのブックレット。
	著者	日本原水爆被害者団体協議会 編			
	出版社	岩波書店			
	分類	369.3/ニ	出版年	2021年	
	所蔵館	全館			

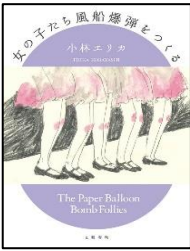
	タイトル	ピースガーデン 継承の庭			2歳のときに広島で家族と被爆し、奇跡的に生き延びた著者。当時の凄惨な様子と、苦悩を抱えて生きてきた人生を、これまであまり語られてこなかった「記憶のない幼児被爆者」の視点とともに記した一冊。
	著者	山中茉莉 著			
	出版社	ハ坂書房			
	分類	916/ヤ	出版年	2023年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	アウシュビッツの小さな姉妹			アウシュヴィッツから奇跡的に生き延びた、当時6歳と4歳だった二人の姉妹。過去の恐ろしい歴史が二度と繰り返されることのないように、アウシュヴィッツで起きた出来事を当事者の言葉で伝える。
	著者	タチアナ・ブッチ 著 アンドラ・ブッチ 著			
	出版社	アストラハウス			
	分類	289.3/ブツチ	出版年	2022年	
	所蔵館	全館			

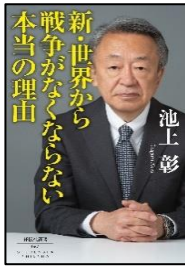
	タイトル	忘却のための記録1945-46 恐怖の朝鮮半島			外地2世の少年の生活は、日本が敗戦となり一変した。日本への避難の道のりには、飢えや病、死に強奪…何度も厳しい局面におかれた。忌まわしい記憶を脱ぎ去るために書いたという日本への逃避行の回顧録である。
	著者	ズラータ・イヴァシコワ／文・絵			
	出版社	ハート出版			
	分類	916/シ	出版年	2022年	
	所蔵館	全館			

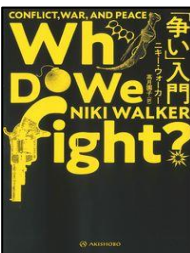
	タイトル	荷風たちの東京大空襲			昭和20年3月10日に起きた東京大空襲。永井荷風をはじめ、東京に暮らしていた作家たちの目に映った空襲の光景を描いている。3月10日当日に焦点を絞り、作家たちが記録した壮絶なドキュメントである。
	著者	西川清史 著			
	出版社	講談社			
	分類	910.26/ニ	出版年	2022年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	やなせたかし おとうものがたり			二十二歳で戦死した弟へ、絵本作家やなせたかしが贈る鎮魂詩。両親と別れてから共に過ごした兄弟の優しい思い出の中に、戦争による深い喪失感、そして「戦争はしてはならない」という揺るがぬ思いが込められている。
	著者	やなせたかし 詩・画			
	出版社	フレーベル館			
	分類	911.5/ヤ	出版年	2014年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	女の子たち風船爆弾をつくる			史実をもとに、膨大な資料と証言に即して書かれた「少女たちの歴史戦争小説」。 太平洋戦争の末期、旧日本軍の秘密兵器「風船爆弾」を作るために東京宝塚劇場に招集された少女たちを描く。 毎日出版文化賞受賞作
	著者	小林エリカ 著			
	出版社	文藝春秋			
	分類	F/コバヤ.エ	出版年	2024年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	水木しげる戦記漫画名作コレクション			戦後80年の節目を迎える2025年に、戦記漫画、エッセイの名作・傑作を3冊にまとめ刊行。水木自身の壮絶な戦争体験などを中心に収集され、戦時中のリアルな描写から、戦争の悲惨さや平和の大切さを考えさせられる作品。3巻まで刊行。
	著者	水木しげる 著 中野晴行 編			
	出版社	汐文社			
	分類	C/ミズキ	出版年	2025年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	新・世界から戦争がなくなる本当の理由			世界から戦争がなくなる理由を池上彰が解説。2015年の初版にロシア・ウクライナ戦争、イスラエルとハマスの戦いや日本の外交など、最新の情報も加わった。
	著者	池上彰 著			
	出版社	祥伝社			
	分類	319.8/イ	出版年	2024年	
	所蔵館	全館			

	タイトル		「争い」入門		どうして争いが起きるのか、その要因や、争いの渦巻く世界がどのように動いていくのかなど、平和を望む際必要な「争い」に関することをわかりやすい言葉で書いた本。
	著者		ニキ・ウォーカー 著 高月園子 訳		
	出版社		亜紀書房		
	分類	319.8/ウ	出版年	2023年	
	所蔵館		全館・中セ		

世代の昭和史 戦前戦中戦後三代に 分ける昭和史1から5の 巻  保阪正康 1949年10月15日生まれ	タイトル	世代の昭和史			昭和の「あの戦争」は世代によってどう感じ受け止め、論じられているのか。昭和史研究の第一人者がさまざまな著名人の「あの戦争」に対する発言や表現についてひも解く。
	著者	保阪正康 著			
	出版社	毎日新聞出版			
	分類	210.7/ホ	出版年	2022年	
	所蔵館	全館・清原			

	タイトル	戦争ミュージアム 記憶の回路をつなぐ			「近現代史における戦争と人間」をテーマにノンフィクションを書き続けてきた作家による、14の戦争ミュージアムの訪問記。各地のミュージアムに展示された、「もの」が語る戦争のディテールに耳を澄まし、歴史の継承を考える。
	著者	梯久美子 著			
	出版社	岩波書店			
	分類	319.8/カ	出版年	2024年	
	所蔵館	全館			

発 行 令和7年7月 編集・発行 宇都宮市立図書館

問合せ 宇都宮市立中央図書館 〒320-0845 宇都宮市明保野町7-57 電話 028-636-0231